

会 議 名	第1回港区立みなと芸術センター整備に向けたプレ事業支援業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和6年3月21日（木曜日）午前10時30分から午前11時50分まで
開催場所	港区役所915会議室
委 員	出席4名 ・吉本 光宏（委員長） ・久野 敦子（委員） ・恵志 美奈子（委員） ・保健福祉支援部障害者福祉課長 宮本 裕介（委員） 欠席1名 ・文化芸術事業連携担当部長 荒川 正行（副委員長）
事 務 局	地域振興課みなと芸術センター整備担当
会議次第	1 開会 2 委員長、副委員長の選出について 3 選考委員会選考スケジュール（案）について 4 事業候補者募集要項（案）について 5 採点基準表（案）について 6 閉会
配付資料	〔席上配付〕 次第 資料1 事業候補者選考委員会設置要綱 資料2 委員名簿 資料3 選考委員会選考スケジュール（案） 資料4 募集要項（案） 別紙1 仕様書（案） 別紙2 選考基準（案） 様式1 質問書 様式2 参加表明書 様式3 事業者概要及び業務実績 様式4 業務従事予定者の経歴及び専任性 様式5－1～2 企画提案書 様式6 業務実施体制 様式7－1～3 共同事業体構成書等 様式8 プロポーザル参加辞退届 資料5－1 採点基準表（一次審査）（案） 資料5－2 採点基準表（二次審査）（案）

会議の内容	
	【1 開会】 (各委員より自己紹介)
A 委員	【2 委員長、副委員長の選出について】 ＜委員長の選任＞
委員長	＜副委員長の選任＞
事務局	【3 選考委員会選考スケジュール（案）について】 資料3について説明
B 委員	応募者が1者ということもありうるのか。また、その場合でも、書類審査やプレゼンは実施するのか。
事務局	お見込みのとおり。
事務局	【4 事業候補者募集要項（案）について】 【5 採点基準表（案）について】 資料4～5について説明、一括審議
B 委員	資料5－2の第二次審査合計点の100点というのは500点の間違いではないか。
事務局	一人当たり100点で、5人の合計では500点となる。
B 委員	資料5－1は5人の合計で1,000点か。
事務局	お見込みのとおり。分かりづらいので、一次・二次ともに一人当たりの点数で統一するよう修正する。
A 委員	加点というのは一次・二次合計の1,500点に加点して200点加点されるということか。
事務局	50点が加点の最高点となる。第一次審査の満点1,000点のうち、事務局採点分200点の5%の10点が一項目当たりの加点となる。加点項目が5項目あるので10点×5項目で50点となる。

A委員	仕様書の業務内容をみると、リサーチ&ツアー型ワークショップ、対話型ワークショップ、旧三田図書館活用モデル事業、シンポジウムをやることが書いてある。旧三田図書館活用モデル事業、シンポジウムは分かりやすいと思うが、特にリサーチ&ツアー型は、細かく書かれている割には具体的に何を想定しているのか分かりづらいと感じる。また、ここまで細かく書きすぎると提案しづらく、書く必要があるのか疑問に思う。
事務局	想定している事業について、分かりやすいよう表現を工夫する。仕様書には具体的に記載しているが、ポイントとしては見積にも影響するので、回数や時期の目安は記載する必要があると考えている。リサーチ&ツアー型ワークショップについては、もう少し抽象的な表現に修正する。
B委員	募集要項の目的には、リサーチ・ワークショップ・シンポジウム・旧三田図書館の活用の4つの項目となっているので、その4項目の提案とし、リサーチについては考慮してほしいことを記載し、ワークショップについては、対話型を重視するなら対話型を含めて提案としたほうが良い。仕様書の「ワークショップの企画に適したアーティストを招へいし」という具体的な表現はいらないのではないかと。2年前のプロポーザルもこういうかたちで公募したのか。
事務局	ここまで詳しくはなく、シンポジウムとリサーチをやりたいということで提案は事業者からもらった。
B委員	目的が達成されるのであれば具体的な方法まで仕様書で規定することはなく、提案の余白を作っておいたほうが良い。
事務局	地域課題の解決するために芸術というツールをつかったワークショップというような表現で、具体的な内容は事業者から提案をもらうように修正する。
C委員	いままで2年間やってきたものというのを継承してほしいという思いを感じる。
B委員	そういうことであれば、プレ事業の2年間の報告書を参照すること、というようなことを一言いれてもいいのではないかと。
D委員	①なるべく多くの方に応募してほしいので、みなと芸術センターの基本理念や重点的な取組について別紙等で記載するとともに、いままでの気運醸成事業の報告については添付したほうが良いと思う。 ②効果測定として、成果指標やそれを定める方法をどう考えるかというのを持っておいた方が良い。

	③これまでの事業との関連性を求めた方が良い。 ④提案書では、「福祉等他分野との関係性の構築」というのだけにとどまっている。課題解決に向けて文化芸術でどう取り組むかというのを提案で書いてほしい。 ⑤ターゲット層について、「誰もが」とあるが、ぼやけてしまう。区民との関係性が分かりづらいので、ターゲット層を具体的に書いた方が良い。
事務局	①については別紙で事業者公表できるよう準備する。 ②プレ事業の効果についてだが、指定管理者が決まれば指定管理者にプレ事業はお願いしたいと考えている。令和6年度のみ本プロポーザルで事業者を決める。効果測定は区で考えるものと考えているが、受託者が参加者を対象にした効果検証及び分析を行うことを仕様書に追記する。 ③については、これまでのプレ事業を踏まえるということを仕様書に追記したい。 ④課題解決の道しるべとして提案をもらうよう修正する。 ⑤対象者については、ワークショップひとつとっても誰を対象とするか、ターゲットを明確にして提案もらうように修正する。
B 委員	成果指標については、評価となると記載するのは難しいので、文化芸術をどう促進し、どのように関係を構築するのか、プレ事業の目的に対して、期待できる効果というのを提案してもらったら良い。
事務局	様式5－2において、事業を実施することでどういう効果が期待できるのかというのを⑦にいれるというのはどうか。
B 委員	それで良い。 ところで、募集要項の目的に「福祉施設等」とあるが、特出しになっているのはなにかねらいがあるのか。
事務局	みなと芸術センターでは、障害や子どもといった福祉施設において、芸術がどう課題解決になるかという理解促進として、アウトリーチ事業を展開し、関係性を数年かけて構築したいと考えている。そういった視点をもってワークショップを開催してほしいというねらいがある。
B 委員	ぜひ進めていただきたい。
A 委員	関係性の構築について、区の福祉関係の人たちがともに協働できるのかできないのか、委託がコネクションをつくるのかというところを仕様書に盛り込んでいただきたい。事業者が選定されて立ち上がる時には、区はどのぐらい一緒にやるのか。

B委員	全てやるというのは難しいだろうが協働体制をとるというのはあったほうが良い。
事務局	関係機関とつなぐのは、区がやったほうがスムーズにいくかと思う。連携体制を築きながら実施したほうが円滑に進むと思うので、仕様書を修正する。
A委員	仕様書の業務内容については、全体的にもう少し抽象的に直すと理解したが、最低限やってほしい時期や回数だけ最低このぐらいという書き方にすれば良いと思う。事業規模の1, 700万円は割と余裕があると感じる。
事務局	最低の目安を仕様書に落として、提案の余地を残すよう仕様書を修正する。実施の際には、区と事業者で協議して仕様書を修正して契約することになる。
B委員	1, 700万円は積み上げでつくっているのか。
事務局	お見込みのとおり。
C委員	A委員に賛同する。様式ももっと自由にかけるように変えていかないといけないと思う。企画提案書の基本姿勢のところが大事なので、両面1枚（計2枚）で足りるのかどうか。また、様式5-2は表のようなかたちで書くようになっているが、両面3枚（計6枚）で足りるのか。
事務局	提案をもらうに当たり、事業者が多いと評価にも時間がかかり委員の負担になるため、簡潔に事業者に書かせることにしたが、ボリュームは相談したい。
C委員	複数の事業者から応募があったら、同じポイントで比較できた方が良い。自由フォーマットを添付でつけるのもありかと思う。また、募集要項と選考基準、様式、採点基準表の言葉が相違ないように合わせてもらったらよい。
事務局	様式5-2は6ページをあくまで上限としている。別紙としては補足資料10枚程度としているので、そこにつけてもらうこともできていると考えている。 別紙2のP2に選定の評価のポイントを明記しているので、事業者はこの視点で評価されるというのがわかるのでこれに基づいて提案がされるものと考えている。募集要項等の文言については統一する。
B委員	何者ぐらい応募がありそうか。

事務局	多くて3者ぐらいと考えている。事業規模が高い金額なのでやりたい事業者はいるかと思う。また、5月下旬にみなと芸術センターの指定管理者候補者の募集が始まる。指定管理者をねらう事業者は応募してくる可能性がある。各委員の第一次審査の採点表提出期限を5/10としているが、事業者が多い場合は、×切はもう少し延ばせるとは思っている。
B委員	様式5-2は比較的評価しやすいが、5-1は難しい。
事務局	基本理念や重点的な取組などを踏まえた業務の目的についての理解など、採点の視点のポイントをあげるのがいいかと思っている。
委員長	提案書の枚数はいかがか。
C委員	様式5-1について、提案項目が3つなら4ページでもいいが、選考基準のとおり4つなら4ページでは少ないと感じる。
A委員	確かに選考基準と様式の項目は対応していたほうが分かりやすい。私は枚数が多くなっても良い。
委員長	様式5-1は上限4ページ、5-2は8ページにするのでいかがか。 ＜了承＞
D委員	第二次審査の「4 区との協調性」について、「区の指示を十分理解し対応ができるか」の視点は、項目1や5と被るのではないかと思うので、例えば、提案そのものが良いかどうかの評価として、「提案の効果性」のような項目にしてはどうか。
事務局	第二次審査の項目4について、表現を変えたいと思う。 第二次審査については、第一次審査が終わった段階で、3事業者程度を通過させたいと考えている。また、二次のプレゼン及びヒアリングは1者当たり30分、出席者3名程度と考えており、選考の目安の最低ラインは一次及び二次のそれぞれの満点の60%を超えているかどうかで、もしそれ以下なら不採択となるが、それでよろしいか。
A委員	事業者数は妥当と考える。点数が僅差となった場合は難しくなると思う。
B委員	第二次審査は、プレゼン後にその場ですぐ採点ではなく、委員による意見交換をしてから採点したほうが良い。

事務局	第二次審査については、事業者のプレゼンが5月31日で、その日のスケジュールとしては、前半プレゼン、終わったら採点を個々で行い、すぐに集計し、10分程度おいて選考委員会を開くことになる。選考委員会にて、どういう視点で採点したかを各委員が講評し、すり合わせを行い、高得点の事業者が決定するという流れとなる。
A委員	第二次審査のプレゼンで、実際にお会いしたときの印象や提案内容によって、第一次審査の結果は変えられないのか。
事務局	区のルールとして、第2回の選考委員会をやったときに第一次審査の結果は確定するのでプレゼンで覆すことができない。
C委員	二次の採点項目はジェネラルであり、実現性という観点で点数を落とすということとはできるのではないか。
B委員	二次が高くても一次が低ければ、取れない可能性があるということと理解した。
事務局	一次と二次の配点が2：1なのは、区のガイドラインに基づくもの。一次の段階では、しっかりと書類をみて評価をしていただくことが大事と考えている。提案書の書き方ぶりだけ良い事業者というのもしっかり存在すると思うので、二次のプレゼンでも提案書の実現性等についてしっかりと評価していただければと思う。本日の選考委員会でご意見いただいた仕様書等の修正案は、今週皆さんにメールで提示するのでご確認いただきたい。その上で、3月27日に公表としたいと考えている。 【5 閉会】